

第5回 日本認知症予防学会 学術集会

「運転時認知障害」の概念構築 と 早期発見の重要性

中村 拓司

平成27年9月25日

特定非営利活動法人 高齢者安全運転支援研究会

首都高5号逆走事故 (フジテレビ「スーパーニュース」)



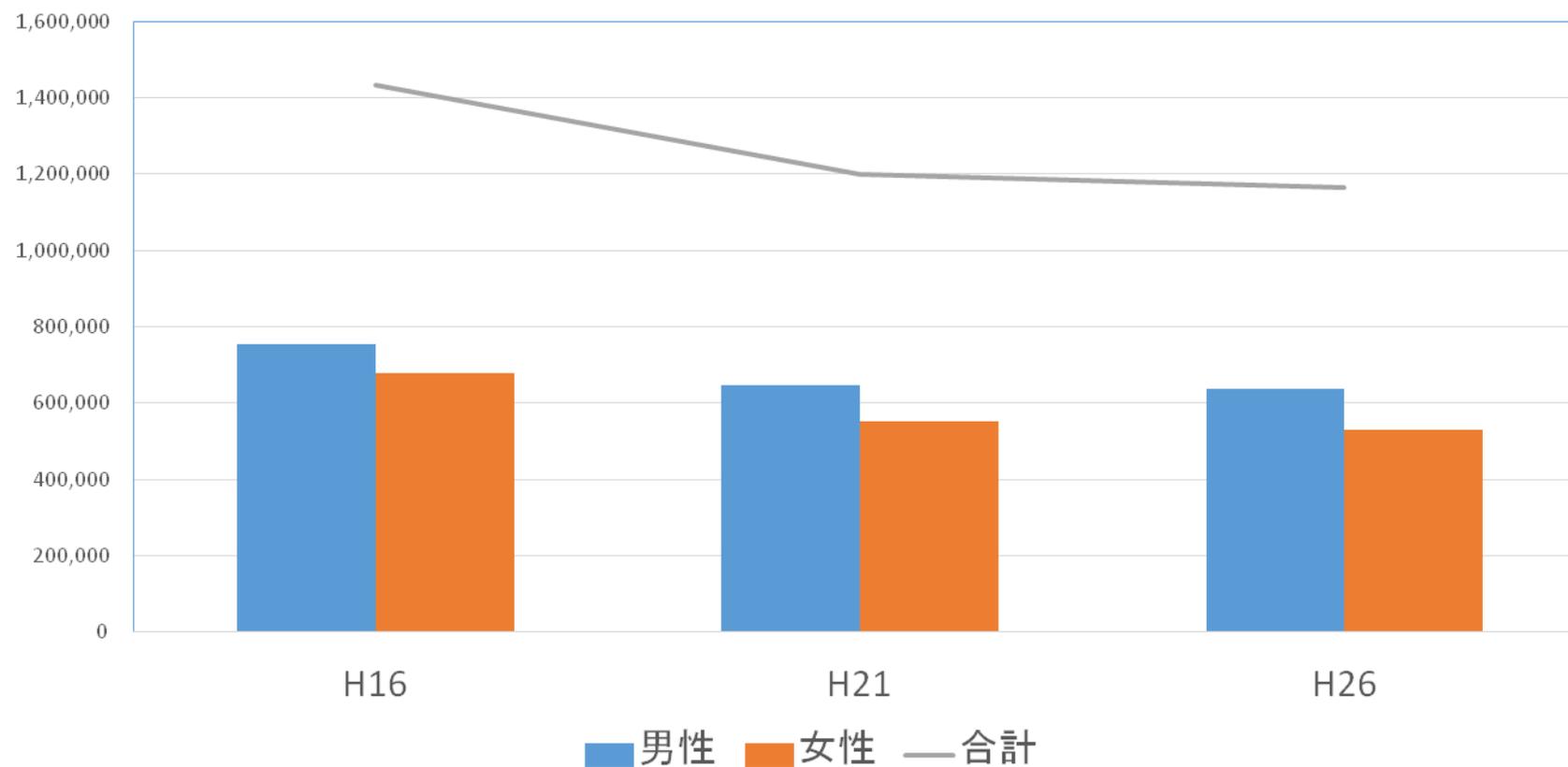
首都高5号逆走ルート

首都高5号線 逆走死亡事故(平成27年1月7日発生)



減少する若年層の免許取得

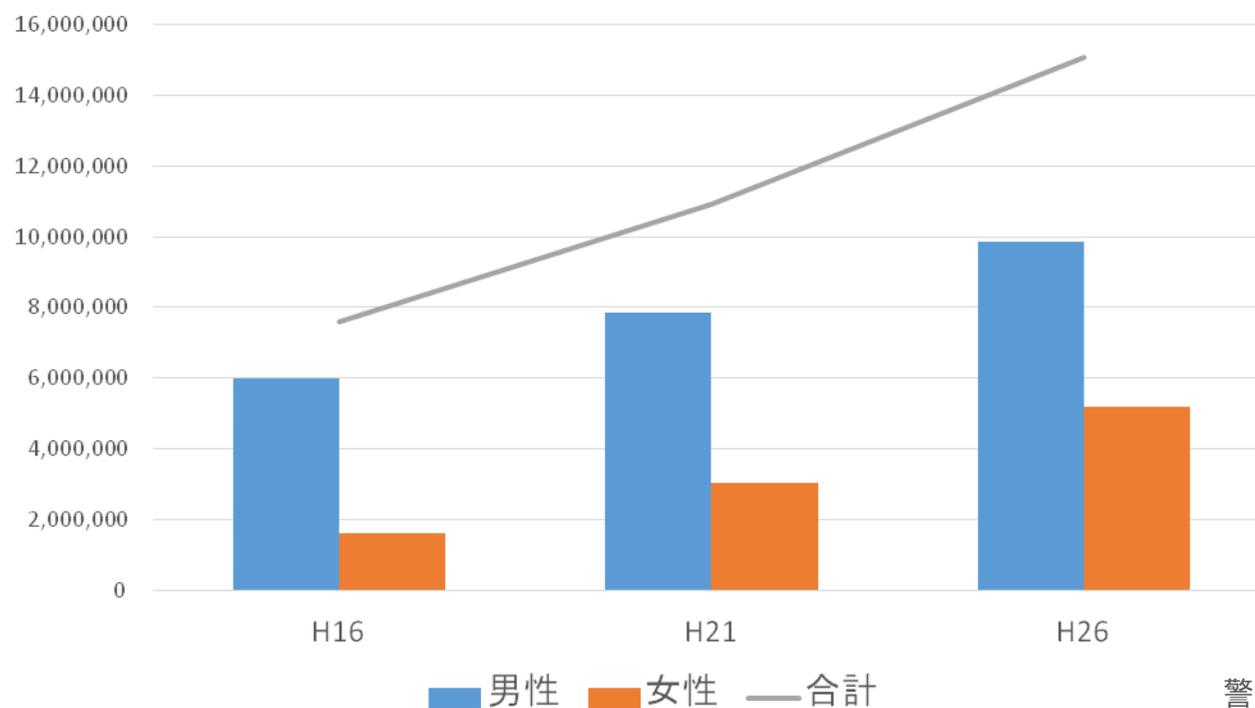
30歳未満の免許取得者数(1種すべて)



増加し続ける高齢免許保有者

H26年: 1,506万人

高齢免許保有者数推移



男性=9,867,762人
女性=5,196,233人

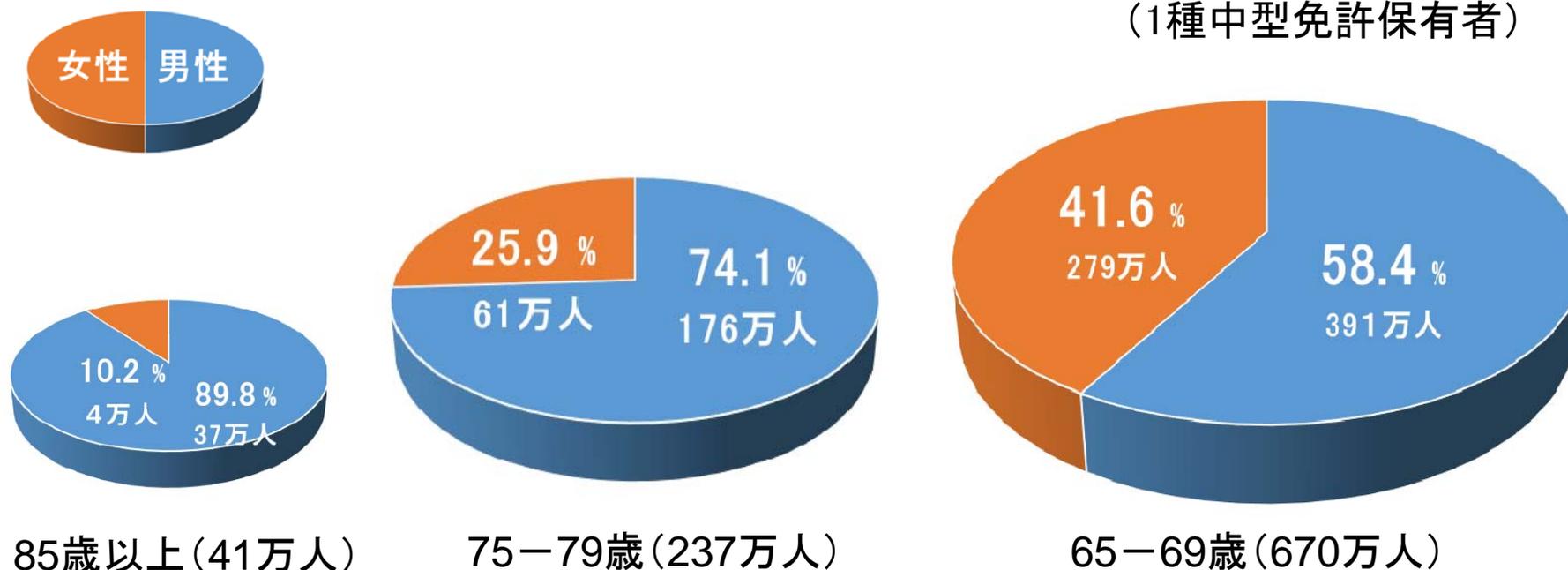
高齢者人口
3,296万人
男性=1,421万
女性=1,875万

警察庁:平成16,21,26年運転免許統計
(16年は1種普通、21,26は1種中型免許保有者)

高齢女性の免許保有率も急上昇

「団塊の世代」の高齢化により、男女の運転免許保有比率が伯仲（平成26年時点）

警察庁：平成26年運転免許統計
（1種中型免許保有者）



2025年問題

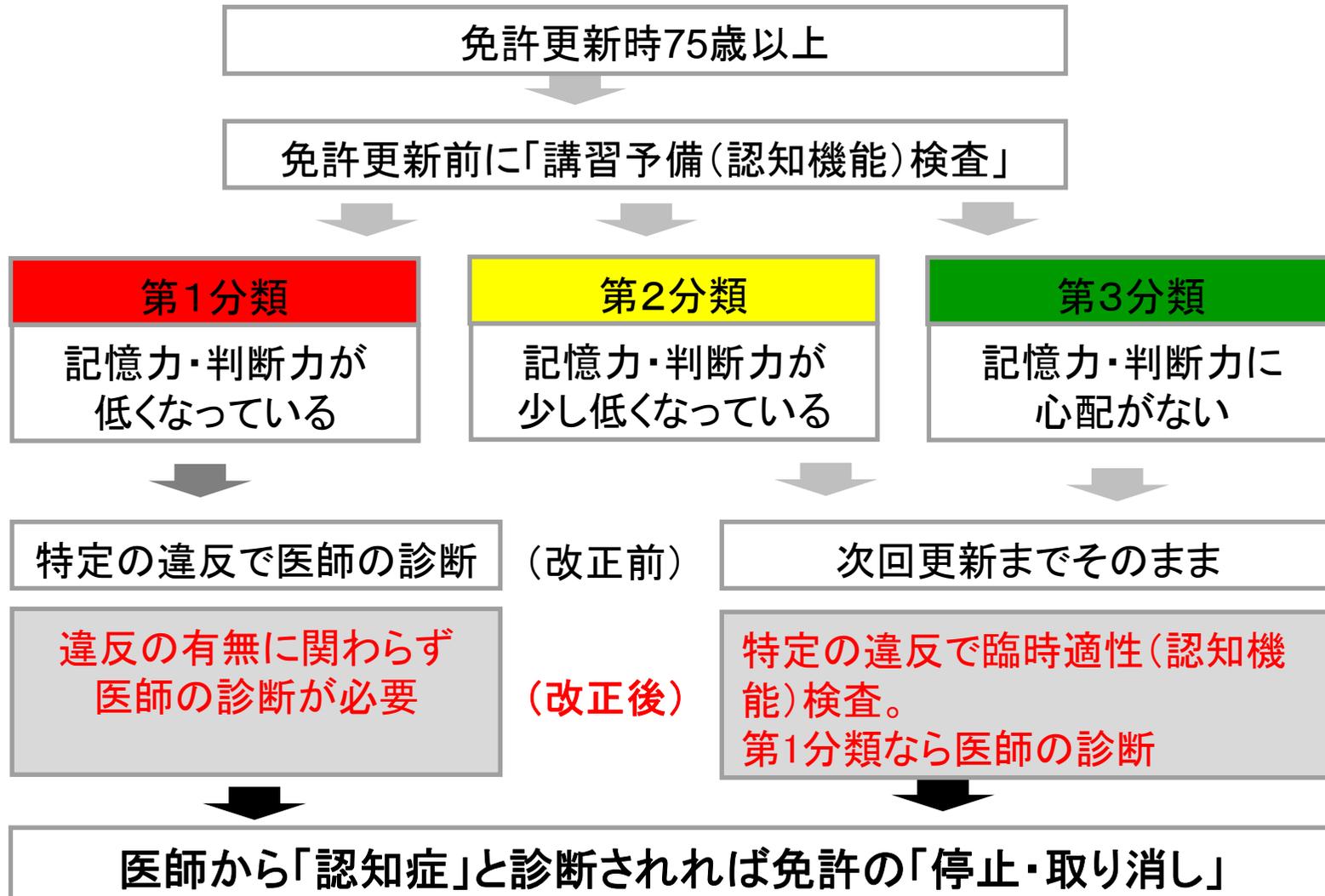
団塊世代が75歳以上に
2200万人、4人に1人が75歳以上という超高齢社会



アルツハイマーおばあちゃん運転手の急増

女性のアルツハイマー発症率は男性の約1.5～2倍

道交法改正による認知機能検査



改正道交法の問題点

- 認知症と危険運転の因果関係が明らかでない
- 診断をする医師の確保がなされていない
- 医師は診断はできるが運転の可否は判断不可
- 第一分類と判定された方への対応の問題
- 運転を奪うことによる生活障害への補償がない
- 団塊世代75歳時には検査の実施自体が危うい
- 予備検査前の人に運転を諦めてもらうには？

課題と解決策の必要性

- 認知症起因の交通事故は増加傾向
 - 女性アルツハイマー高齢ドライバーの急増懸念
 - アルツハイマー初期段階は運転技能低下は小
 - 認知症は、発症の約20年前から進行
 - 教習所指導員の技量によって判定の信頼度に差
 - 指導員に認知症の医学的知識・専門的講習なし
 - 高齢者講習の難易度を上げ更新を難しく(警察)
- 認知症等の運転を客観的・合理的に判断する仕組みの開発
 - 運転継続可否を助言できる人員創出の必要性
 - 相談員に必要な技能・知識に関する要件の策定

75歳以前に何らかの手立てを

- 自動車教習所等での実験によると、講習予備検査対象の75歳未満でも認知症や軽度認知障害の疑いが2～3割程度
- 運転をいつまで続けますか？というアンケートで、約7割が「自分が危険を感じるまで」と答えた
- 自身で運転の危険性認識が困難になる前に、定期的に「運転時認知障害」を検知するシステムを
- 自身の物忘れ度の危険度を認識し、運転継続や免許返納の意思決定

認知症1000万人時代、クルマの**運転時** の**軽度認知障害**を見分けることがカギ

- 軽度認知障害は適切な治療と生活習慣を変えることで治せる(本学会理事長 浦上先生)
- 軽度認知障害か認知症かを見分ける簡便なシステムも(物忘れ相談プログラム)
- 後は何が必要か？
運転者自身の「**気づき**」を促すデバイスと、運転に特化した新「**概念構築**」

運転にMCIの状況が現れやすい？

高齢免許保有者1,506万人
(高齢者人口3,190万人)
の時代だから

新概念！

「運転時認知障害」

運転時認知障害とは

- 「軽度認知障害」で、まだ「認知症」ではない
- 運転に必要な「認知」「判断」「操作」のいずれかに軽度な支障が生じる（事故リスクの増加）
- 放置すると「認知症」に移行する危険性が高い
- 介入により現状を維持、あるいは軽快可能
- 早期発見による障害の自己認識が運転継続可否の重大な岐路
- 継続的観察により認知症への移行を監視（物忘れ相談プログラムの継続使用）

運転時認知障害の兆候

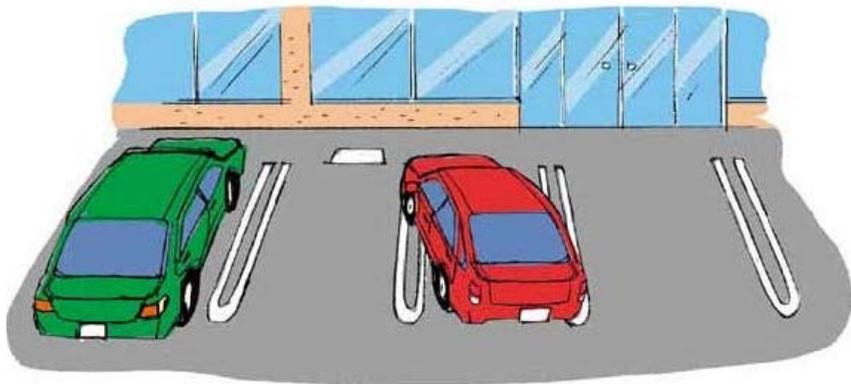
- 目的地に向け出発したが、途中で目的地を失念
- 自分が走っている場所がわからなくなる
- 車庫入れが上手くできなくなる
- 右左折時にウィンカーを出すことを失念
- 車の操作に必要な機器類の呼び名失念（ウィンカー、ワイパーなど）
- 車のキーの置き場所を失念
- 今までできていたカーナビの操作を失念
- 同乗者との会話が苦痛になる

「運転時認知障害」発見と運用

1. 「運転時認知障害」を早期発見アプリで発見
 - 「物忘れ相談プログラム」「TDAS」で確認
 - 認知症予防策(様々な取り組み)への誘導
 - 認知症への移行防止
 - 生涯に至る安全運転の継続

自動車教習所での運用
が最もわかりやすい

運転時認知障害発見アプリ(開発中)



乞うご期待!!!



首都高における実態調査も実施予定

設問

- ・立入/誤進入の経験
- ・立入/誤進入しやすい出入口

(経験者に対して)

- ・経験回数
- ・立入/誤進入したときの状況
- ・立入/誤進入した理由
- ・立入/誤進入したことに気づいた理由
- ・どうしたら立入/誤進入を防げたか

(しそうになった人に対して)

- ・立入/誤進入しそうになったときの状況
- ・立入/誤進入しそうになった理由

